甑島のトシドン

【所　在　地】薩摩川内市下甑村手打・片野浦・青瀬・瀬々野浦（甑島トシドン保存会）
【種　　別】国指定無形民俗文化財
【指定年月日】昭和 52 年 5 月 17 日

トシドンは，毎年 12 月 31 日（大晦日）の夜，家々を訪れると信じられている祝福の神である。

下甑村の各地では，トシドンは天道（天空）から高い山や，馬乗瀬という大きな岩の上に，首のない馬に乗ってやってくるといわれる。大晦日の晩になると村の青年たちは，紙やシュロの皮，ソテツの葉などを使って，鼻の長い恐ろしい容貌の仮面をつくり，これを顔につけてワラミノを着てトシドンに紛し，つきし（従者）をつれて幼児のいる家々を訪れ，外から「オーイ，オーイ，〇〇はいるか！来て障子を開けー！」といって家の中に入る。座敷では家族が待ち，そこでトシドンは幼児に対し日常の行いについて尋ねたり，諭したりして幼児に大きな餅を背負わせて与えて去る。その間，トシドンは自分の足を家人に見られないよう細心の注意を払い，退出するときは後ずさりして出る。

現在，下甑村手打の麓，本町，港，及び青瀬，片野浦，瀬々野浦の６つの地区にトシドン保存会が結成されている。